

7月のTLG

HONDAは今年の5月、EV宣言をしました。2040年までに全車種をEV車にするというものです。
CASEにおけるEV化はルミナスグループにとって2つの影響があります。

HONDAのプレスリリース 4/26

四輪においては「2040年までにEV・FCEV販売比率をグローバルで100%にする」という目標に向け、動きを加速させています。2030年までにグローバルでEVの年間生産200万台超を計画しています。

北米では、2024年にゼネラルモーターズ（GM）との共同開発モデルである「PROLOGUE（プロローグ）」をHondaから、「ZDX」をAcuraからそれぞれ発売します。また2025年には、Honda独自のEV専用プラットフォームをベースとした、新たなE&Eアーキテクチャーを採用した中大型EVの発売を目指します。

日本国内では、2024年に「N-VAN」ベースの軽商用EV、2025年には「N-ONE」ベースのEV、2026年にはSUVタイプを含む小型EV 2機種の発売を予定しています。

また中国では、「e:NS2」「e:NP2」を2024年初頭に発売を予定しており、今月、上海モーターショーで公開したコンセプトモデル「e:N SUV 序」をベースとした量産モデルを2024年中に発売。2027年迄に10機種のEVを投入、2035年までにはEV販売比率100%を他地域に先駆けての実現を目指します。



GM共同開発のプロローグ

HONDA初のEV量産車種「プロローグ」

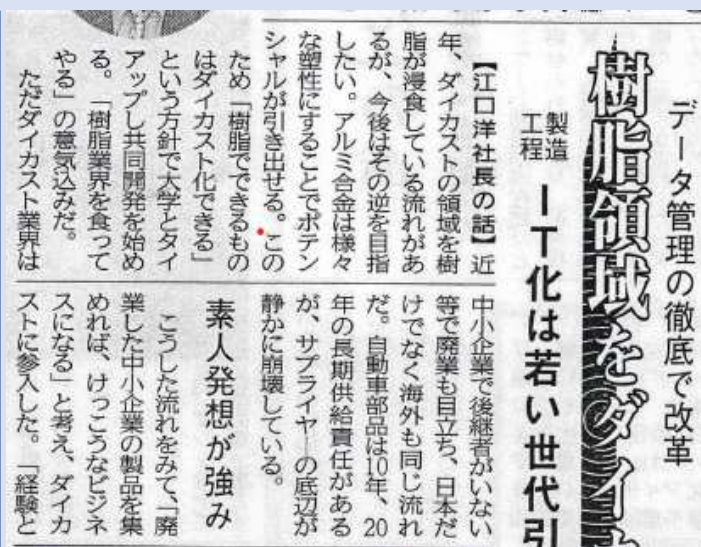
GMとの共同開発で現在HONDAは量産に向けて必死に作りこんでいます。当社もこのプロジェクトに参加しています。どこに参加しているかは、まだデビューしていませんので、公表できませんが... 次のAcuraの「ZDX」にも参加できるよう、TLG全員一丸となって頑張っていきます。

影響 1 ダイカスト会社の廃業

HONDA関連の中小のダイカスト企業で廃業するところが増えてきました。今後、エンジンや関連部品の生産が減少もしくは廃止になる事が予想されますので、早めに事業撤退を決定しているようです。ただし自動車部品は20年間は供給義務があるから、元受けのTier1は困っています。そういう流れで、他社が作らなくなった、または旧来の単価ではできないという補用品、サービスパーツの仕事が、当社に流れてきています。このことは、8年前にダイカスト新聞の取材を受けたときに、コメントしたこととまったく一致しています。

影響 1により⇒ビジネスチャンスは増

ただし、**チャンスはピンチになる**



2015年4月の取材でのコメント

EV化の現在と環境は異なっていますが、本質は見抜いています。

影響 2 バッテリーの品質向上が急務 (BEV=バッテリー電気自動車)

最近、自動車運搬船の火災が頻発しています。BEVを輸送中にバッテリー液が漏れ火災になったと考えられています。走行中のBEVの火災は単独事故で済みますが、輸送船での火災は、搭載車両のほとんどがだめになります。損害は計り知れません。

なぜバッテリー液が漏れるのか？いくつかの理由の一つにバッテリーを構成するセルのアルミパネルに鑄巣やクラックがあり、そこから液が漏れることがあると考えられます。従来の製法で作ったアルミパネルやケースでは鑄巣の根絶ができないからです。

ここに大きなビジネスチャンスがあります。ピンチはチャンスです。



7月28日、オランダ当局は、パナマ船籍の自動車運搬船「フリーマントル・ハイウェイ」で発生した火災はまだ鎮火していないものの、火の勢いが弱まり、海難救助会社が船体に曳航索を取り付けることができたと発表した。

同船は新車3783台を積載していた。船をチャーターした川崎汽船は28日、このうち498台が電気自動車(EV)だったと明らかにした。当初EVは25台とされていた。



商船三井の自動車運搬船『ファシリティエース』が火災を起こした。場所はドイツのエムデンから米国デイビスビルに向かう途中のポルトガル沖。VWグループの車両3965台を搭載しており、VWやアウディ、ポルシェ1100台やベントレー190台、ランボルギーニなども含まれるという。火災の原因だけれど、ポルトガル海事局や関係筋はリチウム電池が原因だと推測しているようだ。

フォルクスワーゲン(vw)グループの高級車など約4000台を積んで大西洋を航行中、出火した商船三井の自動車運搬船「フェリシティ・エース」の被害額が3億3460万ドルに上るという試算結果を、コンサルティング会社アンダーソン・エコノミック・グループが発表した。オートモーティブ・ニュースによると、アンダーソンは当初、2億8200万ドルと見積もったが、21日に上方修正した。

vwは火災による損失見積額を開示していない。また、被害があった車両の費用を保険でどれだけ補償できるかについても不明だ。4000台のうち1100台はポルシェで、残りはvwブランド、アウディ、ベントレー、ランボルギーニだった。

アンダーソン報告書によると、ポルシェだけでもカスタムを施した高級モデルが多く、1100台の価値は1億4000万ドルを超える。また、船の引き揚げ費用は1億5000万ドルを超えると見込まれる。近年起きた類似の災害を例にすると、全体的な被害額は一年以上過ぎても判明しない可能性があり、貨物の被害額をはるかに超える可能性もある。報告書は「船は乗組員が下船した後も燃え続け、(電気自動車モデルに搭載されたりリチウムイオン電池の)リチウム火災の疑いも認められることを考えると、ほぼ全ての車両が修復できない損傷を受けたと推測され、米国市場では販売できない。これらの車両は火災、煙、水による損害を受けただけでなく、海水に浸る恐れもある。恐らく可燃物はほとんど残っていないだろう」説明している。

8月号はTLGメンバーの夏休み特集です。今月は固い話題だったので、夏休みはそれなりに。

現在Uで取り組んでいる半凝固鑄造はADC12では不可能とされています。今回超タジュラルミンの鑄造に成功しました。これからしっかりと理論づけを行い、ADC12でも半凝固鑄造が可能になるよう研究を進めていき、できるだけ早く、今年中に量産化しバッテリーの液漏れをなくします。